

# 時の動き

## 総がかりで勝利

つくば市議会議員 金子 和雄



はじめに

任期満了のつくば市議会議員選挙は、2016年11月13日市長選挙と同時に行われた。今回の市議選は305億円の一つくば市総合運動公園構想」が一昨年の夏に住民投票により、白紙撤回となった事を受け、4期目を目指していた現職の市長が立候補を断念する事態となり、市を二分する選挙戦となる中で市長選と同時に行われた。新社会党から私、金子和雄が公認候補として8期目の闘いを繰り広げ、定数28人中（立候補者38名）2581票の18位で当選をした闘いを振り返った。

住民投票の闘いと市長選の取り組み

つくば市では住民無視、議会軽視で305億円もの税金を使う「つくば市総合運動公園構想」が2013年3月議会で持ち上がり、後に購入する66億円もした土地設定まで触れていきましたが、その後京都府再生機構（UR）が所有する土地を最適地として検討すると発表されたが一般市民はおろか議会関係者も寝耳に水のことであつた。

この構想に不信をいだいた市民は「総合運動公園建設の是非を住民投票で問うつくば市民の会」（略称・住民投票の会）を組織し、議員は政党、会派（注）を問わず議会半数の議員が連携して「なぜ、市長は庄

倒的多数の反対を無視したのか」「なぜ、市民ニーズとかけはなれた計画を進めたのか」・・・などで住民投票賛成の立場で活動を深め、住民投票条例の成立まで一致団結した取り組みを成功させた。

この市長選は、4年前にも市長選に立候補した経緯があり、住民投票を実現させる「住民投票の会」の世話を務め、各地域で開催された集会で説明役を担った元市議の五十嵐立青氏が立候補し新人3人の闘いとなり、五十嵐氏は公約に「総合運動公園問題は調査・検証チームを作り、完全解決を目指す」と表明した。議員はこれまでの運動の取り組みを継承し問題解決のために引き続き政党、会派を問わず議会半数の議



県南集会（2016年11月20日）

員が連携し、金子議員は居住地である桜二ニュータウンで五十嵐&金子の集会を成功させるなど独自のポスターの掲示や連動するチラシ、集会、街頭演説などで支援した。

一方、この問題解決に取り組むべき当時の市長は、自民・公明の推薦する候補者を支持したが、五十嵐氏は多くの有権者や議員の支持で初当選を果たし、11月17日

より市長の任務に着任している。

### 市議選の取り組み

私の選挙戦を振り返ってみよう。つくば市は約23万人を数える県内2番目の都市となり、つくばエクスプレスで秋葉原まで45分で行ける距離にあり、市内には筑波大学をはじめ三つの大学、国や大手企業の研究拠点が多数存在し、約300に及ぶ研究機関・企業と約2万人の研究者を擁しています。外国からの研究者や留学生も多く、外国人登録者は130国以上7400人を数え、総人口の3・5%を占め、研究者や大学生が数多く住んでいるため転入・転出入学・卒業などに伴い毎年3月末の人口減と4月の増加現象が発生しています。

一方多くの課題もあります。研究学園都市としてスタートしたつくば市内の公務員住宅は、現在も進められている公務員減らしの波が国の機関にも押し寄せ公務員住宅の廃止が続ぎ、日増しに入居者の転出で初期の研究学園都市構想の変化をもたらし、

街の姿を変えてきている。その一つに廃止された公務員住宅跡地には巨大なマンションが建設され、オートロックの玄関は住民と地域を分断するような出入り不自由な壁を作ってきている。

そんな状況の中で行われた、つくば市議会議員選挙を勝利するために、活動内容と活動拠点の設定、議会報告は配布地区に対応したニュース内容や配布体制、市民運動との連携、支持者の協力体制、居住地の協力体制など早期の対応が取り組める状況など、十分な会議を重ね一つひとつ取り組みが進められてきたことが、少数の選対委員で限られた仲間を取り組まれたことが勝因につながっている。

しかし課題も見えた選挙戦であった。少子高齢社会と都市化した住宅地など私たちが取り巻く地域状況は変化・進展してきている環境は活動を鈍らせる。

（注・議員の政党、会派の内容は↓保守系無所属、共産党、市民ネット、新社会党）  
（かねこ かずお）